

ことばの発達



ことばの発達には個人差があります。自分の子どものことばが遅いと、まわりの子がペラペラお話ししているみたいに思えて、あせったりしてしまいますね。

でも、あまり心配しないで下さい。たしかに、たいていの子どもは1歳6か月くらいまでに話し始めますが、ゆっくりなお子さんもおられます。子どもの表情から言いたいことを読み取ってことばに代えるなど、

お子さんの気持ちを十分に受け止め、「話したい気持ち」を育てていきましょう。また、ことばの芽を育てるためには、規則正しい生活のなかで様々な体験を積み重ねていくことや、身体全体をつかって楽しく遊ぶことが大切です。

周りがあせらず、大きな心で待ってあげましょう。

ことばのめやす

- 🌸 1歳～1歳6か月ごろ 一語文（ワンワン）
- 🌸 1歳6か月～2歳ごろ 二語文（マンマ チョーダイ）
- 🌸 2歳～2歳6か月ごろ 多語分（パパ カイシャ イッタ）
- 🌸 2歳6か月～3歳ごろ なぜという質問が出てくる。おしゃべりになる。
- 🌸 3歳～4歳ごろ だいたい日常会話可能。発音もある程度ははっきりしてくる。

*こんな場合は、ことばが遅くても心配いりません

- まわりからの話しかけがよくわかっている（言語理解）
- 耳が聞こえている（聴力）
- 一緒に楽しく遊べる（対人関係）



📖 ことばを育てる暮らしの工夫

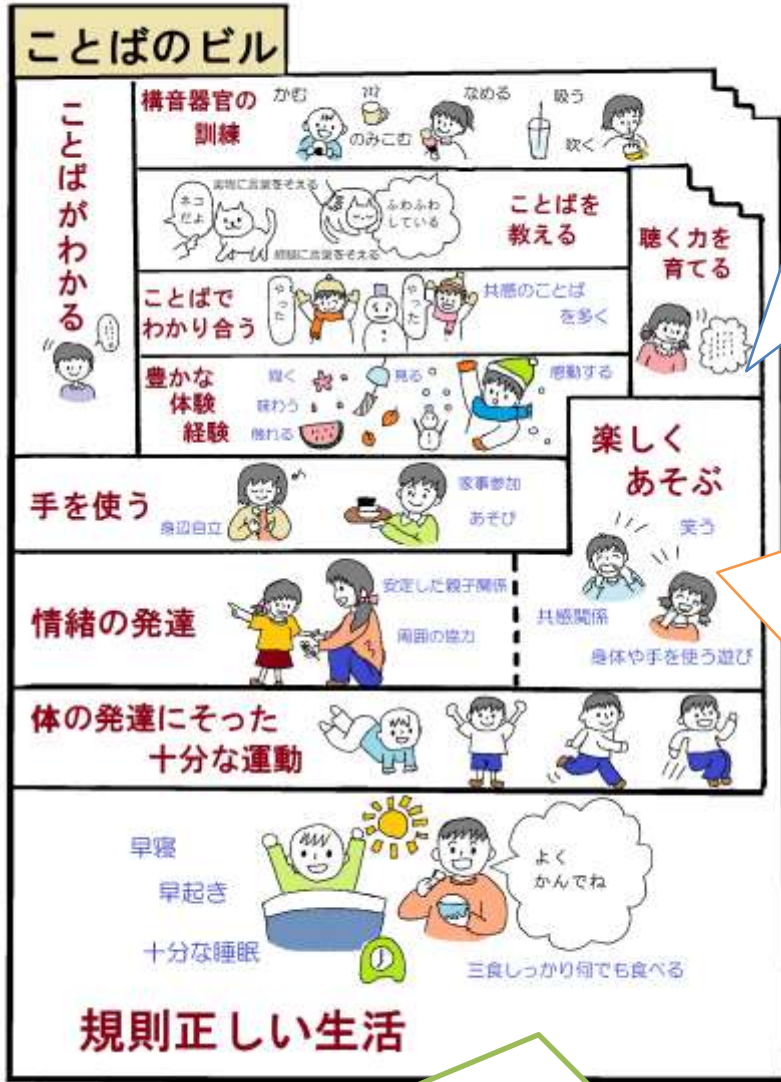
- 🌸 生活リズムを整える・・・早寝早起き、食事やお昼寝の時間を一定にします。
- 🌸 からだを動かして十分遊ぶ・・・からだを動かすと、その刺激が脳を発達させます。
- 🌸 気持ちが安定していること・・・一緒に楽しく遊んでくれる人がいることが大切です。
- 🌸 手を使うこと・・・手の働きは、ことばのはたらきと深い関係があります。
- 🌸 いろいろな経験を積むこと・・・テレビやビデオに頼らずに、本物に触れましょう。
- 🌸 よく噛んで食べること・・・よく噛んで口や舌を動かすことが発音の準備運動になります。



子どもの成長発達の土台は、「身体づくり」と「心育て」です

まず大切なのは、規則正しい生活リズム作りです。

しっかりした土台ができてくると、わかる、まねる、知る、覚える、話すといった「知力やことば」の力が育ち、言葉のキャッチボールができるようになります。色々な経験のなかで、「知りたい」「やってみたい」と興味や関心の世界を広げていきます。



4 階から上は「知力・言葉育て」

● 手をいっぱい使おう

手や指先を使うことで脳が刺激されます。服を着る、ボタンをはめる、お手伝いをするなど生活のなかにチャンスはいっぱいあります。

● 言葉をそえて

豊かな言語環境をつくろう

短い言葉で声をかけたり、こどもの動作に合わせた言葉をかけましょう。

3 階は大切な「心育て」

● 楽しい関わり、いっぱい笑おう！

言葉と心は人と人との関わりのなかで育ちます。笑いのある団らん、うれしい遊び、面白い体験、自分をわかってもらう安心感、大好きな家族と過ごすほっとする時間など、家庭は「心育て」の基盤です。

1, 2 階は「身体づくり・生活づくり」

● 規則正しい生活で健康な身体をつくろう

決まった時間に起きて、もりもり食べて、のびのび遊んで、ぐっすり眠りましょう。

● からだを使って楽しく遊ぼう

身体を使った遊びは丈夫な身体をつくれます。

遊びのなかで知恵も使い、人とかかわる力も育ちます。